日系人口は１９０万人で統一を

日本国外務省による日系ブラジル人分布一覧

サンパウロ州	1,169,083
南マットグロッソ州	29,805
マットグロッソ州	21,023
パラナ州	143,588
サンタカタリーナ州	13,937
リオグランデドスール州	21,925
リオデジャネイロ州	63,470
ミナスジェライス州	75,449
エスピリトサント州	8,627
アマゾナス州	26,613
ロンドニア州	8,428
アクレ州	4,633
ロライマ州	1,815
連邦区	16,150
ゴイアス州	28,946
トカンチンス州	9,269
ペルナンブーコ州	30,537
セアラ州	34,235
リオグランデドノルテ州	8,408
パライバ州	9,046
アラゴアス州	9,713
セルジペ州	9,504
バイア州	78,449
パラ州	39,353
アマパ州	3,403
ピアウイ州	18,671
マラニョン州	26,998
合計	1,911,078

□ブラジルの日系人口は何人なのか――。本紙は通常「１５０万人」を使ってきた。だが、日本国外務省のブラジル基礎データ頁（２２日参照）には「日系人総数推定・約１９０万人」に加えて「在日ブラジル人数・約１７万４千人」とあり、合計すれば「約２００万人」だ▼一方、海外日系人協会のサイトには、海外日系人数として全部で３５０万人中、ブラジルは１６０万人とある。つまり「１５０万人」「１６０万人」「１９０万人」とバラバラに使われている状態だ▼一番厳密な人口調査は、移民５０周年（１９５８年）のブラジル日系人実態調査（鈴木悌一委員長）だ。何といっても全数（全戸）調査だからすごい▼その報告書によれば当時の日系人口は４３万０１３５人だ。州別分布（２５頁）では、最多はサンパウロ州で３２万５５２０人（７６％）、次いでパラナ州の7万８０９７人（１８％）、3番目が麻州（南麻州と分離前）の８８８６人（２％）、４番目がリオ州の５８０３人（1・３５％）、５番目がパラー州とアマゾナス州その他アマゾン地方準州の５２２７人（1・２1％）、６番目がミナス州の２８７８人（０・６７％）とあり、この比率がその後の基準になった▼次は移民８０周年で人文研が１９８７～８８年に行ったサンプル調査で「１２２万8千人」という数字を発表した。これが最後の学術的数字だ。これに人文研がその後の人口自然増を追加計算して２０００年頃に発表した数字が「１５０万人」。その後も自然増させて「１６０万人」が一人歩きしていた。加えて在日ブラジル人の１７万人が、１５０万人に入るのか、別なのかーという疑問もあった。これは日本のデカセギ研究者に聞いても分からなかった▼ちなみにウィキペディア（２２日参照）によれば、駐伯イタリア大使館は２０１３年時点のイタリア系子孫を「3千万人」と発表している。なんとブラジル人口の１５％、７人に一人はイタリア系となる。イタリア移民は１５０万人（１８７０年から１９３０年頃が中心）だから、ネズミ算的な人口増加率といえる▼アラブ系子孫（シリア、レバノン、イラク、イラン、パレスチナなど）の人口は現在「１２００万人」といっているが、最もアラブ系人口が多かったといわれる１９２０年でも5万人しかいなかった。それが1千万人越え、イタリア系の半分近い数字を自称している▼ちなみに移住者数が最も日本移民に近いドイツ移民（２６万人が入植）でも「５００万人」と主張している。彼らの移住開始は１８２４年と古いとはいえ…▼いずれにせよ、日系人の「１５０万人」というのは少し〃つつましい〃数字すぎないだろうか。そんな疑問をいだきながら１０年、１５年とズルズル過ごしてきた。その間も当然、日系人口も増えているはずであり、歯ぎしりするような思いだった▼昨年来、梅田邦夫大使の音頭取りで「１９０万人」という数字が出てきたのは、実に喜ばしいことだ。日系人が何人いるのかーという問題は、自己認識にも関わるとても重要な問題だ。それに、日系政治家が日系社会からの要望をブラジリアで代弁する場合、大きな数字のほど説得力がある。特定の商品を日系社会からブラジル社会に広げる経済効果を計算する場合、日系人の発展具合を歴史的に検証する場合など、いずれも日系人口を基礎にして論が組み立てられる。今後は「１９０万人」で統一しませんか。（深）